

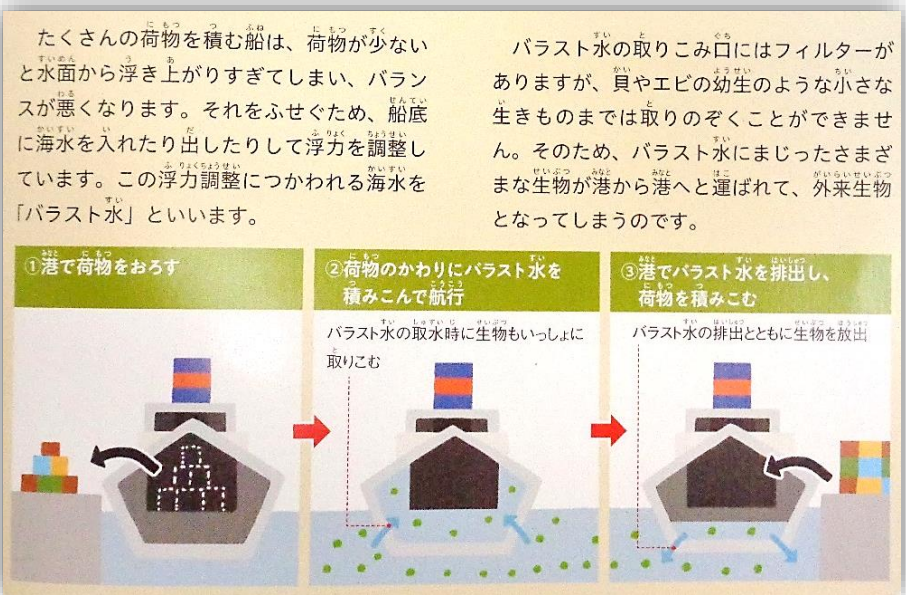
C ホンビノスガイ

原産地 北アメリカ東部～中央アメリカ
 日本国内の分布 千葉県、東京都、
 神奈川県(東京湾)、兵庫県(大阪湾)

船に乗ってやってきた ホンビノスガイ

ホンビノスガイは北アメリカの東海岸に広く分布する二枚貝です。現地では食用としての人気が高く、クラムチャウダーなどにして食べられています。

日本では、1998年に千葉県の幕張にある人工海岸ではじめて見つかリ、その後、東京湾と大阪湾で繁殖していることが確認されました。これは、船のバラスト水とともに運ばれて、定着したものと考えられています。



食用で流通している
大型の二枚貝



ほかの貝と競合しない？

外来生物が定着すると、もともといた生物と競合するものですが、現在のところ在来生物への被害は確認されていません。その理由としては、ホンビノスガイが酸素の少ない環境を好むため、アサリなど来の貝類と競合しにくいとだと考えられています。

ホンビノスガイは、ハマグリに似た味でおいしいため、2007年ごろからハマグリに代用品として食べられるようになりました。日本在来のハマグリは、千葉県では野生のものが絶滅するなど全国的に数を減らしていますが、ホンビノスガイの漁獲量は年々ふえています。



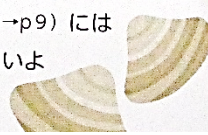
アメリカでは
クラムチャウダーの
材料として重要な
二枚貝。

被害がある？
漁業や潮干狩りの対象となり、以前は「白ハマグリ」「オオハマグリ」の名前で売られていました。今後各地に広まってしまうと、食用として重要な在来の貝（アサリやハマグリなど）と競争関係になったり、在来のビノスガイとの雑種が生まれたりするおそれがあります。

対策(対応)としては...

それでも見守る 必要はある

ホンビノスガイのように、外来生物のすべてが駆除の対象となるわけではありません。在来生物に悪い影響をあたえないようであれば、環境への影響を見守りながら、積極的に利用されることもあるのです。ホンビノスガイも、食用として利用されていますが、生態系被害防止外来種リスト(→p9)には掲載され、分布が拡大しないよう見守られています。



【出典】 書名 / 出版社名 / 出版年 / 掲載ページ / 図書館名
 『危険生物・外来生物大図鑑』/あかね書房/2017年/82P
 『外来生物はなぜこわい③』/ミネルヴァ書房/2018年/24P,25P
 『最新 日本外来生物』/平凡社/2019年/282P

C コイ

？ どうやって 日本にきた 食用などにするため

もともとは、西日本を中心に在来のコイがすんでいましたが、食用などの目的で各地に移殖され、明治時代以降はアジアやヨーロッパなど大陸系のコイも、食用や水質浄化などのために移殖されました。

日本人にとってはなじみが深い魚で、昔から食用や観賞用に利用されてきました。日本中の河川、湖や沼、池で見られますが、じつはそのほとんどが在来のコイではなく、外来のコイもしくは雑種であることが、近年の研究によってわかりました。養殖されて各地で放された外来のコイがふえたり、雑種が生まれたりして、在来のコイは琵琶湖(滋賀県)、霞ヶ浦(茨城県・千葉県)、四万十川(高知県)などのごく一部の地域にしか残っていません。在来のコイは、今後新種として発表されるかもしれません。

コイ (コイ目コイ科)

Cyprinus spp.

全長60cm 黒海、カスピ海、アラル海にそそぐ川、
 中国、ベトナム、日本 日本全国; 世界各地 ない ★
 底生生物の捕食や水草・藻類の食害、水質の劣化、在来
 の系統との交雑。



◀ 外来または雑種と思われるコイ。在来のコイとくらべ、背中が少しもりあがっていて、すんぐりとした体をしています。

日本在来のコイ

日本在来のコイは、もともとは西日本にすんでいたと考えられています。大陸系のコイや飼育されているものに比べ、丸太のように太くて長い体型をしています。琵琶湖の水深が20m以上より深い水域にしか残っていません。



◀ 在来のコイ。体が細身で筒のように丸く、前後に長いのが特徴です。

よくふえ、よく食べる

コイは、よごれた水や塩分がまった水でも元気にくらすことができ、繁殖力もあります。寿命は数十年といわれ、とても大型になります。雑食で水底の貝やミミズ、水生昆虫、魚卵などのほか、水草や藻まで、手当たりしだいに食べ、水底の生物をほとんど食べつくしてしまうこともあります。また、在来種との雑種をつくるため、純粋な在来種がいなくなってしまうます。

コイが増えすぎてこまったこと



繁殖力の強いコイは、在来魚を食べて数を減らし、在来魚が減ると、それを食べる水鳥などにも悪影響をおよぼします。

！ どのように 対策をとる 放流を規制して 在来種を守る

全国各地に外国産のコイが広がっている状態です。まず、コイの放流を規制し、つかまえて数をへらしていくことが第一です。とくに、在来種のコイが残っている場所では、積極的に駆除して、雑種をつくらないようにすることが大切です。

ニシキゴイは在来？ 外来？

ニシキゴイは、色あざやかなもようのついた観賞用のコイです。きれいなもようになるように品種改良してつくられたコイで、このように人工的につくられたものも外来生物となります。そのため、野外には放さないようにしましょう。



◀ ニシキゴイ。お寺や庭園などの人工池でよく飼われています。

【出典】 書名 / 出版社名 / 出版年 / 掲載ページ / 図書館名
 『危険生物・外来生物大図鑑』/あかね書房/2017年/66P
 『学研の図鑑 LIVE 外来生物』/学研/2022年/34P,35P
 『ずかん 海外を侵略する日本&世界の生き物』/技術評論社/2017年/111P